

情報伝達媒体と情報の分類とそして情報通信発展上の主要課題

—個人情報権利の権利及び Fake 情報への対抗としての透明電気通信網—

○氏名 森田英夫 Morita Hideo

Keywords : 情報伝達媒体、レイヤー、個人情報権利の搾取、透明電気通信網、民主主義

1 目的 : 本研究の目的は、今日情報通信は日常生活に大いに役立ってはいるものの、幾つかの問題がありそうなので、その有様を括り出し問題点を指摘することが目的である。

2 方法 : 本研究の調査・分析方法は、紙媒体としての新聞雑誌、電子的電磁波媒体としてのラジオ TV インターネットにある情報を、縦軸を媒体種別、横軸を情報レイヤーの種別でマトリックスにして判別する。

3 結果 : 調査・分析の結果、情報全般を考えると、A 伝達カバー (距離) レイヤー、B 学術文化レイヤー、C 個人がらみ情報データレイヤーの3レイヤーで分類できる。

A 伝達距離レイヤーは、①地域 (家族・部落・村落・市町村・都道府県)、②国民国家内部、③人間社会 (地域や産業活動のグローバルな情報)、④地球上とその周辺 (宇宙空間)、と分類でき、

B 学術文化活動レイヤーは、①文化 (スポーツ・音楽・文学・詩・絵画・マンガ・ゲーム)、②学問 (自然科学・社会人文学・工学) と分類し、

C 個人がらみ情報レイヤーは、①周りの社会がセンシングして入手するデータ、②個人自作データ、③公的管理主体データ (行政・役所・図書館) と分類できる。

C①には当該個人が気付かないうちに取られてしまうスマホをはじめとする携帯通信上の情報そして、街角や公的インフラ内の各施設の監視カメラや盗聴まがいの情報もある。

そして、そこにおける社会的課題としては、

(1) GAF A 等によるビッグデータ処理経由の個人情報 (①+②) of C) の権利搾取と、(2) グローバル情報伝達 (①~④of A) の進展を阻むインターネットの現状、という二つが特に大きな問題である。

4 結論 以上により、今のインターネットは民主的な形を成していない。インターネットには法廷がなく、権力の分立もありません。こうした民主主義の基本構造は、どの面からも現在のグローバル・インターネットにおいてはまったく実践されていません。False や fake 情報の排除が可能なグローバル通信を支える透明電気通信網には新たなインターネットが必要と思れる。

【主要参考文献】

(1) FINANCIAL TIMES 「巨大 IT から権力取り戻せ」グローバル・コメンター ラナ・フォルルーハー
日本経済新聞 2019.12.11

(2) マルクス・ガブリエル「世界史の針が巻き戻るとき」翻訳者大野和基 PHP 新書
株PHP 研究所 2020年2月28日

(3) 森田英夫 島崎誠彦 「ソーシャルメディア SNS における一対一から多対多の情報通信の課題解決についてのオントロジー的考察」2019.11 41 回情報通信学会

(4) 森田英夫・島崎誠彦「遠距離情報伝達の方向性に関する動向のオントロジー的考察」
2019.6.30 40th 情報通信学会、

(5) 森田英夫「情報通信システムにおける情報内容取り扱い規範に関するオントロジー的考察」
2017.11.18 37th 情報通信学会

(6) 「ネット広告費用、TV 超えスマホ普及、初の首位」日本経済新聞 2020.3.12